

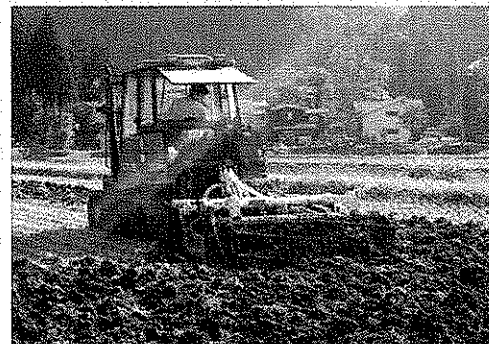
稲わら・籾がらを使って 元気な田んぼに

土づくりのポイント

秋すき込みは10月20日頃までに

稲わら等を分解する土壌微生物は、地温が15℃以上で活動が盛んになります。稲わら等の秋すき込みは地温の高い10月20日頃までに行いましょう。

また、腐熟促進剤等は稲わら等の分解を促進する効果があるので、必要に応じて活用しましょう。



すき込みは5～10cm程度の浅うちで

稲わら等のすき込みは、作業能率や酸素の供給を考慮し、5～10cm程度の「浅うち」としましょう。

湿田や冬期湛水しやすい水田では、稲わら等のすき込み後、排水溝をつくり、地表水を排除できるようにしましょう。

稲わらで耕畜連携を 進めましょう

よく乾燥した稲わらは、貴重な家畜の飼料です。地域で畜産農家との連携を積極的に図り、県産の良質な稲わらを収集し、牛の飼料として地域の肉牛農家や酪農農家に提供しましょう。

また、田んぼには畜産農家から良質な畜ふん堆肥の供給を受け、耕畜連携による土づくりを進めましょう。

土づくり資材を活用しましょう

転作等で畑地化すると、地力が低下していきます。リン酸・ケイ酸・鉄などが不足するほ場では、土づくり資材を積極的に施用しましょう。

籾がらも土づくりに効果があります

籾殻の分解はゆっくり進みますので、短期的には生育・収量への影響は少ないですが、長期的には土壌の物理性を改善するなど、土づくり効果があります。



地域ぐるみで環境に優しい農業を推進しましょう！